

シリアの化学兵器：例の犯行者によるもう一つのニセ旗

(下)

子供を毒ガスで殺して得をするのは誰か？

SOTN (State of the Nation)

April 6, 2017

テロ攻撃とロシア全国への抗議

最近のサンクト・ペテルブルグにおけるテロ攻撃は、周到に用意され、ウラジミール・プーチン大統領の帰郷に、意図的にタイミングを合わせたものだった。14 人もの人々が殺されただけでなく、何十人もがブリーフケース爆弾によって重傷を負った。また 2 つ目の散弾を詰め込まれた装置が、ペテルブルグの別の駅に、不発のまま見つかり処理された。しかし、まさにその日に、プーチンがそこへ行く予定だったことは事実であり、はっきりした意図がうかがえる。ペテルブルグ地下鉄での罪のない人々への攻撃は、プーチンに対し、ロシアでは誰も安全ではない、彼自身も含めて、というメッセージを送った。それはまた、NWO 陰謀団が、彼とトランプ大統領を必要な間だけ引き離しておき、その後、第 3 次大戦を本格的に始める意図をもっていることを伝えている。

西側の情報局によって実行された地下鉄テロに先立って、周到に統制された、全国に宛てたプーチンに対する抗議が、ちょうど一週間前にあった。この抗議文はどこからとも現れたように見え、ロシアの野党党首 Alexei Navalny の名が頭についていた。この人物はプーチンの政敵であり、明らかな CIA の従僕である。にもかかわらず、この抗議が多く都市で、このような組織によって起こったという事実そのものが、NWO 陰謀団が、トランプを倒そうとしているのと同じ方法で、プーチンを倒す決意をしていることを反映している。注意すべき重要なことは、ジョージ・ソロスの援助する抗議運動は、アメリカでもロシアでも、散発的な騒乱を起こしていることである。同様に、本国・外国を問わず、あらゆる国で起こっているニセ旗事件は、最後には、一つのクーデタを引き起こすのに利用されるであろう——ニセ旗がうまくいけば。

4 月はしばしば戦争と紛争の月である

地球のチェスボード上の、こうしたすべての地政学的な動きや策動は、一つの究極の様相を語っている。それは、シリアで更に多くの戦争が起こることである。最悪の場合のシナリオは、米軍がシリアとその先まで、直接介入し、不法にかかわることである。この展開は、必然的にロシアとの直接対決に導き、それはアメリカを、国際法を無視して行動する侵略者にするであろう。アメリカ兵が招かれずしてシリア国内に姿を現わし、国連安保理による審議の規定を破ることになるであろうから、このような不法な軍事干渉は咎められ、チェックされるであろう。

北レヴァント地方の土着の人々にとって不幸なことに、この月は戦争の売りつけの季節である。(彼らの住んでいる場所がたまたま、石油の探索、油田開発、精製と/またはオイル・ガスのパイプライン輸送を求めて、石油会社が渴望する場所である。) 3月の春分の日から5月1日までは、ZAAAの軍隊が、特に代理兵によって、敵対行動を始める、好まれた期間の枠になっている。彼らは武力紛争を計画する問題になると、時計のようである。この特定の時間枠は、常に、NWO グローバリストが“一世界政府”を目指す彼らの計画を、大きく押し進める機会を限定する枠として働いてきた。(その一部のリストを下に上げた。)

Wars, False Flags, Assassinations, Riots, Bombings during April

- April 1st 1992 – Bosnian War Starts
- April 3rd 1888 – First Murder By Occult Serial Killer 'Jack The Ripper'
- April 4th 1968 – MLK Jr. is assassinated
- April 6th 1830 – Mormon Church organized
- April 8th 2005 – Funeral of Pope John Paul II
- April 7th 1994 – Rwandan Genocide began
- April 11th 2010 – Polish Presidential plane crash
- April 12th 1861 – American Civil War begins
- April 12th 1945 – FDR dies in office
- April 13th 1970 – Apollo 13 crippled
- 1975 – Lebanese Civil War starts
- April 15th 2013 – Boston marathon bombings
- 1912 – RMS Titanic Sinks
- April 16th 2007 – Virginia Tech massacre
- April 18th 1983 – Beirut Barracks Bombings
- April 19th 1993 – Waco Siege Ends in flames
- 1995 – Oklahoma City bombing
- April 20th 2010 – Deepwater Horizon Oil Spill begins in GOM
- 1999 – Columbine School Massacre
- 1961 – Bay of Pigs failure
- 1889 – Adolf Hitler born
- April 21st 1989 – Tiananmen Square Protests
- April 25th 1898 – Spanish American War declared by US
- April 27th 2014 – Canonization of Pope John XXIII and Pope John Paul II
- April 29th 1992 – LA riots begin
- April 30th 2009 – Queen Beatrix assassination attempt
- 1966 – Church of Satan founded
- April 30th 1975 – Vietnam War ended

また“犠牲の季節”と呼ばれて、3月の後半と4月には、ニセ旗作戦、露骨な戦争の売りつけ (warmongering)、その他、挑発によらない侵略行為などの歴史的パターンが、しばしば見られる。上にあげた、世界を変えるような出来事は、近い過去に起こった大きな出来事のいくつかの例にすぎず、1861年4月12日、南北戦争が始まって以後のものである。

<http://stateofthenation2012.com/?p=70608>

次のビデオは、利益のための、また Ordo Ab Chao (Order out of Chaos, 混沌からの秩序) を創り出すための、陰謀団の戦争行動というこの方面の事情を、よく知らない人々の手ほどきとしてすぐれたものである。[多数のニセ旗攻撃：“犠牲の季節”が始まった

<http://stateofthenation2012.com/?p=70608>] このプレゼンテーションには、肝要なデータポイントが含まれ、この4月が、シリアと世界各地で危険な時期となる、極めて明瞭な可能性のあることを教えている。ロシアが現在、テロと抗議の的になっているように、シリアとイラクもまた、多くの人々が“北大西洋テロリスト機構”と呼んでいるものの、銃の照準に入ったままであろう。実際、NATOの悪名高い Operation Gladio (グラディオ作戦) は決して終わっていなかったのだ——2017年というこの危機の年に全世界が目撃しているように。

<http://themillenniumreport.com/2017/04/operation-gladio-the-untold-story-of-the-unholy-alliance-between-the-vatican-the-cia-and-the-mafia/>

「NATOの秘密軍：GLADIO作戦と緊張の戦略」

<http://themillenniumreport.com/2017/04/natos-secret-armies-operation-gladio-and-the-strategy-of-tension/>

深層国家

現在最大の関心事は、ドナルド・トランプが、プーチンと和解するという彼の選挙運動中の約束を、破るように強要されるか、甘言に乗せられるかという問題である。ロシアの本土を征服することが**深層国家**の最優先課題だから、ロシアと仲良くするということは、異常なほどの強い信念と決意を要求する。**深層国家**の要員たちが、何度も繰り返し、平和の申し出を断り、戦争続行のイニシャティブを取ってきたのだから、トランプ大統領は明らかに、地上で最も困難な仕事に取り組んでいる。彼の決断、特に彼の軍事行動が、シリアに関して、いかに決定的に重要になるかを考えてみれば、彼はもっぱら、決定的で疑いの余地のない情報だけによって行動するのが賢明である。

ここで極めて深刻な問題は、アメリカの情報各局(すべて深層国家によって所有され動かされている)が、彼に正確な情報を提供することを拒否するだろうということである。そして、彼らが彼に与えるシリア情勢は、何であれ間違いなく、永遠の戦争エコノミーに最も資する

ものになるだろうということである。結局のところ、これが**深層国家**の要員が到達するすべて、すなわち戦争と戦争のうわさである。ただ今回は、グローバリスト陰謀団は **New World Order** アジェンダの最終段階を実現するために、全面的な第 3 次大戦を必死に求めているのである。

第一次世界大戦の恐怖が、1919 年 6 月に**国際聯盟 (League of Nations)** を結成する口実に用いられ、また第二次大戦が 1945 年 10 月に、**国際連合 (United Nations)** を設立するのに利用されたように、**NWO** グローバリストは、彼らの計画する第 3 次大戦の成果に、**一世界政府 (One World Government)** を目論んでいる。支配者エリートは、このようなグローバルな体制は、絶対的な必要に迫られなければ、この地球上の文明に押し付けることはできないことを知っている。時の権力が望んでいるのは、終末的な荒廃をもたらす世界的紛争が、社会主義から共産主義へという詐欺的なマルクス主義モデルに基づく、グローバルな全体主義体制を始めるための、そのような [体制押し付けの] 正当化を与えることである。

結論

例によって、人がどうしても訊ねたくなる単純な疑問は、**Cui bono?** (いったい誰の利益になるの?) ということである。確かに、この特定の時点において、シリアで、子供を含めた罪のない男女に、このような恐ろしい化学攻撃を仕掛けることで、誰が得をするのだろうか? 確かにシリア政府ではない。もちろんロシアでもない。

「反乱軍 (テロリスト): イドリブの化学兵器攻撃から “得をした唯一の者たち” ——アナリスト」<http://themillenniumreport.com/2017/04/rebels-only-people-who-benefited-from-idlib-chemical-weapons-attack-analyst/>

この質問に対する正確な答えは一つだけある。その答えは、2003 年のイラク戦争が、大量破壊兵器というウソに基づいて始められたことを考えてみれば、直ちに見つかるであろう。ネオコンのグローバリストが、その話をありとあらゆる所に植え付け、最後に彼らの捨て駒大統領であるジョージ・W・ブッシュが出てきて、ボタンを押したことは誰でも知っている。そして今日のイラクを見るがよい。

世界がいま目撃しているのは、“**拡大イスラエル (Greater Israel)**” 計画の出張作業である。その目標は、中東全域を、シオニスト-アングロ・アメリカン枢軸のただ一つの従僕国家にすることである。見かけ上は、かつてのローマ帝国のように、イスラエルがこの地域を支配することになるが、それはアングロ・アメリカン帝国を統率する、彼らの主君のためである。その帝国が実は、第一帝国——神聖ローマ帝国——と全く同じ原理の上に建てられた “第 4

帝国”なのである。

今、世界は、なぜ北大西洋テロリスト機構が、彼らの最大の、最も世界に力のあるテロリスト・フロントを、Operation Gladio と名付けたかを知っている。(訳者：ラテン語の gladius は「剣」)

推奨される読み物：

「報告：シリアの化学攻撃の背後にいるソロスにつながる集団」

<http://themillenniumreport.com/2017/04/report-soros-linked-group-behind-chemical-attack-in-syria/>

「反政府（テロリスト）軍の化学兵器倉庫が、イディブでシリアの空爆を受ける——ロシア防衛省」 <http://themillenniumreport.com/2017/04/rebel-warehouse-with-chem-weapons-hit-by-syrian-airstrike-in-idlib-russian-mod/>

参考文献：

「反アサドという主張：アメリカがシリアに介入するための都合のいい口実」

<http://themillenniumreport.com/2017/04/anti-assad-claims-a-perfect-pretext-for-us-to-become-more-involved-in-syria/>

「シリアで使われた化学兵器は、もう一つのニセ旗作戦だったのか？」

<http://themillenniumreport.com/2017/04/were-the-chemical-weapons-used-in-syria-another-false-flag-operation/>

「シリアの化学“攻撃”：ロシアが反政府（テロリスト）軍の兵器を非難」

<http://themillenniumreport.com/2017/04/syria-chemical-attack-russia-blames-rebel-weapons/>

注は省略。